

## 【第103回生涯教育講座】

## 子宮頸癌の最近の話題

みや ざき こう じ  
宮 崎 康 二

キーワード：子宮頸がん，子宮頸がん検診，HPV 検査，HPV 検査と子宮頸部細胞診の併用検診，子宮頸がん予防ワクチン

## 要 旨

子宮頸がんは、「子宮頸がん予防ワクチン」と「子宮頸がん検診」を併用する事により、ほぼ完全に制圧できる“がん”と言われている。しかし、ここ数年の日本の子宮頸がん検診受診率の現状を考えると、欧米の検診率に比して極めて低率であり、島根県も例外ではない。また、子宮頸がんワクチンは世界120カ国以上で承認され、有効性・安全性が広く認められたワクチンであるにもかかわらず、日本ではワクチンの副作用が報告されて以降接種率の低迷が続いている。一方、子宮がん検診の今後のあり方として、HPV 検査と子宮頸部細胞診の併用検診が提案され、その有効性についての議論が高まっている。本稿はこれらの現状と問題点について解説した。

## はじめに

子宮頸がんは、若い女性（20～39歳）が罹患する「がん」の中では乳がんに次いで多く、女性の100人に1人が生涯いずれかの時点で、子宮頸がん罹患するといわれている。

子宮頸がんは、日本では子宮がん全体の5～6割を占め、毎年15,000人（0期を含む）が新たに罹患し、毎年3,500人が死亡している。日本の子宮頸がんによる死亡数は、最近、減少から増加に転じた。罹患率は若い20～30歳代の女性が急激に増加しているにも関わらず、若い女性の子宮頸が

ん検診受診率は伸び悩んでいる。子宮頸がんは、100%ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が原因と考えられており、「性感染症」の一つと考えられている。一方、世界で初めて人間の「がん」に対する予防ワクチンとして開発された「子宮頸がん予防ワクチン」は、世界120カ国以上で承認され、2007年に世界で最初に公費助成プログラムを導入したオーストラリアをはじめ先進国を中心に、接種費用を公費で助成する国は2012年9月現在で40カ国にのぼっている。日本では、2009年12月に2価ワクチンが発売され、2010年11月に全国で公費助成（国1/2 市町村1/2）が開始され、2013年4月1日に子宮頸がんワクチンが定期接種化された。

Kohji MIYAZAKI

島根大学医学部産科婦人科

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1